

根羽村のトータル林業と流域連携

長野県根羽村



根羽村の森林

1 根羽村の森林

根羽村は、長野県の最南端に位置し、愛知県と岐阜県の県境に隣接しています。標高1,000m級の山々に囲まれ、平坦地が少なく、起伏に富んだ地形です。古くからスギ・ヒノキを主体とした植林が行われ、人工林率は73%



面積	8,997ha
林野面積	8,543ha
うち私有林	3,695ha
私有林率	44%

2 「トータル林業」のはじまり

木材の輸入自由化等により、国産の木材価格が低迷する等の状況が続いてきたにもかかわらず、当村では「林業低迷は一過性のものである」との思いを持ち「親が植え、子が育て、孫が伐る」というサイクルを続けてきました。

に達しています。当村では明治時代からほぼ全戸が山林を所有（各戸平均5.5ha）し、林業を基幹産業としてきました。

それまでは木を伐採し、丸太を販売するだけでしたが、根羽村森林組合と連携し、木を植え、育て、伐採する第1次産業、村で所有した製材所で丸太を加工・乾燥する第2次産業、加工した製品を販売する第3次産業を村内で完結する「トータル林業」に平成14年から取り組んでいます。地域の設計士や工務店の目に見える形で、地域の山で木を伐採し、JAS認定を取得した村内の工場で製品化、家づくりに安心して使える建築用材として提供することにより、品質の高い住宅を施主に届ける「邸宅管理方式」も可能となりました。

引き続き林業を村の基幹産業とする方向性を打ち出しました。

3 低コスト作業による木材生産

「トータル林業」を続けていくためには、域内での木材生産を前提として、より多くの所有者の方に施業意欲を持っていただき、少しでも多くの所得を森林から得られる仕組みづくりが必要です。そのため、森林組合職員が施業集約化を進めるとともに、作業路網の整備



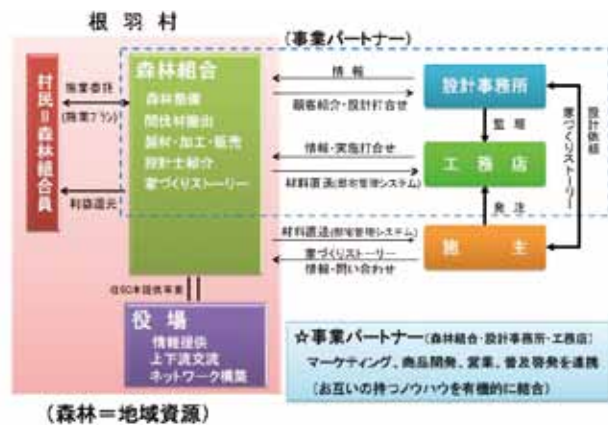
トータル林業の確立



月瀬の大杉



根羽村森林組合製材工場



村と森林組合との連携

「地域材」を使うことが、なぜ重要なのか

健全な国土を守るには、どの地域にも人が住み続ける必要がある。
地域材の活用は、「健全な山づくり」、「地域内での金銭の循環」、
「地域文化や伝統の継承」など持続可能な地域づくりの原点である。

木材のカスケード利用が大切

森林を整備し、木材を利用する(木を使い切る)ことで、地域内の環境整備と地域内経済の循環が可能となる。(持続可能な地域)

地域材を使用した持続可能な地域づくり

根羽村のトータル林業

- ① 6次産業のトータル
伐採・搬出の一次～製材加工の二次～工務店への直送販売の三次
- ② 全世帯森林組合員のトータル
- ③ 一本の木をすべて使うトータル
一本の木を建築部材として使用する外、樹皮、オガ粉、端材を乾燥機の木質ボイラーの燃料に無駄なく使う
- ④ 間伐材をすべて使うトータル
保育間伐で切り捨てられた未利用材を「木の駅プロジェクト」で村民から買い上げ、地域通貨で支払う
- ⑤ 人生のすべてのライフステージで木づかいを進めるトータル
- ⑥ 伐採・造林一貫作業により次世代に向けた森づくりを行うトータル
50年生以上、500本/haの林分づくりと帯状伐採による更新伐とコンテナ苗による植栽、獣害対策同時進行で次世代の山づくりをトータル的に行う

根羽村のトータル林業

4 下流域との流域連携

と高性能林業機械の組合せを検討して、間伐による収入金額を事前に所有者に提示することになっています。この取組により、年間約50～60haの主間伐が実施され、約5,000～6,000m³の素材生産を実現しています。

5 「地域材」を使い最後まで「使い切る」こと

地域材を地域の中で使っていく仕組みをつくることは、「健全な山づくり」「地域内での金銭の循環」「地域文化や伝統の継承」など持続可能な地域づくりの原点であり、地域に人々が住み続けるために、山づくりに企業の皆さんにも積極的に参加していただいています。森林づくり活動のほか、子どもたちへの森林環境教育にも取り組んでいます。森林を守り育てることにより地域に林業が「業」として復活するだけでなく、水源を守ることもつながるという当村の取組は、未来永劫にわたって引き継がれていくものと確信しています。

6 これからの根羽村のトータル林業

今後も、経済活動としての林業に加え、森林認証の取得やJークレジットなど環境保全に配慮した取組を引き続き進めていきます。また、①6次産業のトータル、②全世帯森林組合員のトータル、③一本の木を使い切るトータル、④間伐材を使い切るトータル、⑤人生の全てのライフステージで木づかいを進めるトータル、⑥伐採・造林一貫作業により次世代に向けた森づくりを行うトータル、といった様々なトータルを目指し、林業に取り組んでいきます。

けるために大切な視点であると考えます。地域の森林を将来にわたって管理していくためには、木材のカスケード利用が重要なポイントになると考えました。木材価格の低迷により、間伐されても放置されていた林地残材を活用して、「木のおもちゃ」「木を使った遊具」の生産を進めるほか、木質バイオマスのエネルギーとしても利用しています。資源を最後まで使い切ると同時に化石燃料の使用を減らすことにもつながり、環境対策に大きな成果が得られています。